

# 2020年3月期第2四半期 決算説明会

代表取締役社長  
藤井 敏道

2019年11月25日



株式会社ピーエス三菱

## 目次

1. 2020年3月期第2四半期 決算概要	P. 2
2. 2020年3月期 業績予想	P. 14
3. 中期経営計画2019の進捗	P. 18
Appendix 会社概要	P. 26

# 1. 2020年3月期第2四半期 決算概要

2

## 2020年3月期第2四半期 トピックス

### 建設業界は引き続き好況、防災・減災、国土強靱化対策が重点的に実施

- 2019年度建設投資額の見通しは、前年度比3.4%増の62兆9,400億円の見通しとなり、4期連続で増加
- 国土強靱化に向け、インフラ老朽化対策などの公共投資は継続、NEXCO大規模更新事業の発注は工事規模の大型化が進む
- 民間企業設備投資は、民間非住宅建築投資（11.8兆円）は横ばい、民間土木投資（5.8兆円）は10.7%増加する見通し



出典：関東地方整備局HP  
(令和元年台風19号の出水速報第2報)

### 売上高は前年同期実績を下回るものの、各利益項目は期初計画比大きく改善

- 売上高は、土木事業は工事進捗の遅れ等により減少、建築事業は繰越高が増加するも受注目標の未達により、全体では計画比で19億円減少
- 売上利益は、下期予定していたNEXCO大型案件の設計変更獲得、建築案件の工事採算の向上等により全体で3.0ポイント改善
  - 土木事業の利益率は期初計画よりも4.1ポイント上昇し16.1%、建築事業では利益率は10.0%と1.6ポイント改善
- 各利益項目が期初計画比で大きく改善し、四半期純利益が14億700万円と期初計画より約11億円増加

### 各場所での採用活動が奏功し採用状況は目標達成

- 人材確保の状況は、定期採用、中途採用共に目標達成
  - 採用活動を全社的に展開、学生向けの現場見学会を開催し現場を肌で感じてもらう取り組みを推進
  - 研修制度は、階層別に充実を図り、3年以内の離職率は2.9%（2016年度新卒）に抑制
  - グループ人員数1,700名（2019年3月期）、2020年4月新卒予定も計画35名に対し37名（11月現在）の内定者

新規大卒就業者の3年以内の離職率の推移（建設業）



出典：厚生労働省HP  
新規大卒就業者の産業分類別  
就職後3年以内の離職率の推移  
(当社実績を追記)

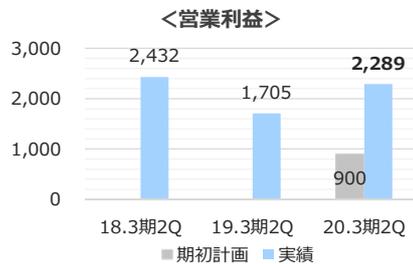
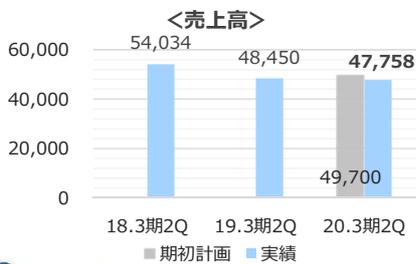
3

# 業績サマリー

## 連結業績サマリー

(単位：百万円、%)

	2018.3期2Q		2019.3期2Q		2020.3期2Q			コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	期初計画比	
売上高	54,034	38.0	48,450	△10.3	47,758	△1.4	△3.9	手持工事の進捗が計画より減少
売上総利益	6,515	50.6	6,246	△4.1	6,587	5.5	23.1	設計変更獲得、原価改善の取組み等により増益
営業利益	2,432	272.8	1,705	△29.9	2,289	34.2	154.4	販管費減少及び売上利益の増加により増益
経常利益	2,403	256.4	1,643	△31.7	2,249	36.9	149.9	営業利益増益による
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,947	287.9	1,149	△41.0	1,470	28.0	390.3	法人税等負担増なるも増益
1株当たり年間配当金 (円)	16.0		20.0 (特別配当 12.0)		20.0			



# 利益増減分析 (前年同期比)

## 経常利益増減分析

(単位：百万円)



- 売上総利益は前期比3億41百万円増加し、利益率が12.9%から13.8%に向上
  - 土木事業は、好調だった前年同期より売上総利益は減少、利益率は15.4%から16.1%と0.5%改善
  - 建築事業は、前期からの繰越工事の増加、工事採算（7.3%から10.0%）の改善により売上総利益は大幅増加
- 販管費が前期比2億41百万円減少
  - 人材確保を目的とした従業員の処遇改善等により人件費が増加、前年計上した過年度情報処理費用がなくなり物件費が減少
- 営業外費用が24百万円減少
  - 前年計上した旧工場跡地売却に伴う建屋解体費がなくなり減少
- 法人税等の負担が増加するも、四半期純利益は3億21百万円増加し、14億70百万円を計上
  - 繰延税金資産の取り崩し等により法人税等が増加

# 利益増減分析（期初計画比）

## 経常利益増減分析

（単位：百万円）

【期初計画】 2020.3期 2Q 経常利益	1,237 売上総利益 増加	151 販管費減少	△10 営業外収益 減少	△29 営業外費用 増加	【実績】 2020.3期 2Q 経常利益  2,249
900	土木事業 +947 建築事業 +258	人件費減 +21 物件費減 +130	持分法投資利益減 △14 受取配当金増 +5	持分法投資損失増 △18	

- 売上総利益は12億37百万円増加、売上総利益率が10.8%から13.8%に上昇
  - 土木事業は、下期予定していた工事完成に伴う設計変更獲得が前倒しになり売上総利益が9億47百万円増加、利益率が12.0%から16.1%に上昇
  - 建築事業は、工事採算の改善等により、売上総利益が2億58百万円増加、利益率が8.4%から10.0%に上昇
- 販管費が期初計画比1億51百万円減少
  - 人件費の減少、設計料収入、IT費用の期ずれ等により物件費が減少
- 営業外収益が期初計画比10百万円減少、営業外費用は期初計画比29百万円増加
  - 主に持分法投資損失による

# セグメント別業績

## セグメント別売上高・売上総利益・受注高

（単位：百万円、%）

	2018.3期2Q		2019.3期2Q		2020.3期2Q		コメント
	実績		実績		実績	前年比	
売上高	土木事業	29,275	31,084	27,886	△10.3		・土木事業では、工事進捗の期ずれ等により減少 ・建築事業では繰越物件の増加があり、前年実績より増加
	建築事業	23,692	16,523	18,565	12.4		
	製造事業	734	523	909	73.8		
	その他兼業事業	331	318	397	24.6		
	合計	54,034	48,450	47,758	△1.4		
売上総利益	土木事業	3,915	4,792	4,497	△6.1	・土木事業は、工事完成による設計変更獲得等もあるも、売上高減により減少 ・建築事業は、売上高の増加、工事採算の好転により増加	
	建築事業	2,737	1,208	1,858	53.7		
	製造事業	△61	26	42	58.2		
	その他兼業事業	154	150	171	14.0		
	調整額	△229	68	18	△72.7		
合計	6,515	6,246	6,587	5.5			
受注高	土木事業	26,700	35,254	28,984	△17.8	・土木事業は、大型案件の期ずれ等により減 ・建築事業は、予定していた案件の失注により減	
	建築事業	18,086	17,270	12,167	△29.5		
	製造事業	734	523	909	73.8		
	その他兼業事業	331	318	410	28.9		
	合計	45,854	53,366	42,471	△20.4		

# 土木事業

## 業界環境

- 2019年度公共事業関係費は、5兆9663億円と前年比15%増
  - インフラ老朽化対策や、豪雨・台風災害等を踏まえた防災・減災対策などへの重点化が推進
- PC土木市場は、約3,000億円規模が当面継続の予測
  - 新設橋梁では高速道路の4車線化計画があるが全体的には縮小傾向、一方で維持補修事業は拡大

## 業績推移



- 下期予定していた工事完成に伴う設計変更獲得が上期実績となり、また原価改善等を主因として売上総利益が期初計画より大幅増加
  - 工事の進捗遅れにより売上高が減少、設計変更獲得や原価改善があるも売上総利益は前年を若干下回る
- 受注高は、新設橋梁や大規模床版取替工事等の期ずれ及び失注により前年及び期初計画を下回るも、第3四半期で受注となり挽回
  - 下期受注に注力し、来期以降の売上高及び売上総利益の確保を目指す

大型受注案件 (受注金額上位3件)

工事名	工事概要
大規模修繕工事2019-3-松(阪神高速)	PC桁補強88径間、RC橋脚補修12基 鋼板接着工、外ケーブル工他
越前・敦賀間軌道スラブ(JRTT)	軌道スラブ製作運搬13,679枚
小樽ジャンクションランプ橋(NEXCO東日本)	11径間連続鋼・コンクリート混合箱桁橋 PC上部工8径間連続箱桁橋L=434.5m

# 建築事業

## 業界環境

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックに続き、2025年大阪万博、総合型リゾート開発 (IR) などのプロジェクトが計画
  - 労働力不足への対応としてPCa工法の需要は増加見込み
- 引き続き他社との受注競争激化
  - 好採算物件については、各社との受注競争が激化

## 業績推移



- 前々年度から引き続き他社との競争が激化しているが、採算最重視の受注施策が奏功し売上高及び売上総利益は改善
  - 緑越工事の増加により売上高が増加、売上総利益は工事採算の改善等により前年同期より利益率向上 (7.3%→10.0%)
- 受注高は、商業施設等の受注があったものの、失注及び発注時期の期ずれにより前年同期比で減少
  - 注力物件の失注や発注時期の期ずれが影響し前年より約51億円減少

大型受注案件 (受注金額上位3件)

工事名	工事概要
某店建替工事	S造 平屋 基準法床面積：約4,290m <sup>2</sup>
老健施設新築工事 (建築工事)	S造 地下1F 地上5F 基準法床面積：約3847.74m <sup>2</sup>
某ショッピングセンター造成工事	開発面積：約59,417m <sup>2</sup>

# 製造事業及びその他兼業事業

## 製造事業 - 業績推移



## その他兼業事業 - 業績推移



# 貸借対照表

## 連結貸借対照表の主な項目

(単位：百万円)

	2018.3期2Q 実績	2019.3期2Q 実績	2020.3期2Q 実績	コメント
資産合計	83,296	90,196	76,195	
流動資産	65,865	69,796	55,886	・買掛債務の支払、借入金の返済等により現金預金が5,149百万円減少
現金預金	12,440	14,802	9,652	・工事代金の入金により、受取手形・完成工事未収入金等が10,240百万円減少
受取手形・完成工事未収入金等	43,452	45,868	35,627	
固定資産	17,430	20,400	20,308	
有形固定資産	12,073	13,394	13,557	・建物及び工事事業用機械等の購入により有形固定資産が163百万円増加
無形固定資産	196	176	166	・繰延税金資産の取り崩し等により投資その他の資産が244百万円減少
投資その他の資産	5,161	6,828	6,584	
負債合計	54,980	54,755	40,918	・買掛債務の支払により、支払手形・工事未払金等が1,818百万円、電子記録債務が375百万円それぞれ減少
流動負債	44,742	44,143	30,108	・借入金の返済により短期借入金が5,867百万円減少
固定負債	10,237	10,611	10,809	
純資産合計	28,316	35,441	35,277	・四半期純利益1,470百万円を計上、配当金1,516百万円を支出
株主資本	26,582	33,402	33,084	・BIP信託に係る自己株式301百万円の取得
その他包括利益累計額	1,733	2,038	2,192	
負債純資産合計	83,296	90,196	76,195	

# キャッシュ・フロー

## 連結キャッシュ・フローの主な項目

(単位：百万円)

	2018.3期2Q	2019.3期2Q	2020.3期2Q	コメント
	実績	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,274	△853	3,900	
税金等調整前四半期純利益	2,401	1,662	2,233	
減価償却費	310	353	321	
退職給付に係る資産の増減	14	39	79	・営業収益の積上げ
退職給付に係る負債の増減	159	121	105	・工事代金の入金による売上債権の減少
工事損失引当金増減	△59	△757	11	・工事進捗によるたな卸資産の増加、買掛債務の支払による仕入債務の減少
売上債権の増減	△1,874	3,721	10,121	・未払金及び預り金等の支払によるその他営業活動フローの減少
たな卸資産の増減	△772	△361	△1,029	
仕入債務の増減	△1,122	△3,699	△2,193	
未成工事受入金の増減	△365	123	756	
その他営業活動フロー	△406	△1,125	△4,634	
法人税等支払額	△559	△933	△1,872	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△287	△534	△1,342	
有形固定資産取得	△299	△475	△1,337	・前年取得したストック事業に係る設備建設等、有形固定資産の支払
その他投資活動フロー	12	△58	△5	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△715	△4,091	△7,707	
短期借入金純増減	△57	△3,069	△5,867	
リース債務返済による支出	△43	△39	△21	・短期借入金の返済
自己株式の取得による支出	△0	△0	△295	・BIP信託に係る自己株式の取得
配当金支払額	△568	△853	△1,516	・増配により配当金の支払額が増加
その他財務活動フロー	△45	△129	△5	
現金及び現金同等物期末残高	11,771	6,958	9,652	

## MEMO

## 2. 2020年3月期 業績予想

14

### 2020年3月期の取組み

#### 発注が大型化した大規模更新・修繕事業の生産性向上と受注強化

- 土木事業では大規模更新・修繕事業の発注が大型化しており、生産性向上施策を検討及び実施し、工事要員対策を充実させ、受注強化を図る
- 当社独自の床版継手技術(MuSSL工法) やフルキャスト壁高欄を現在施工中物件で採用し、施工後の検証を行う

#### エリア展開による受注拡大と建築部門の一体化による強化

- 建築事業では他社との競争激化が続いており、前年に引き続き受注目標未達となっている。本部と支店との情報共有・連携を深め、エリア展開を進め受注目標の達成に注力する
- PC元請受注の拡大に向け、4月に工事及び営業部門のPC・一般の組織を統合した。一般建築の従来顧客にもPCaPC施工実績を基に営業強化を図る

#### グループ全体の人財確保・育成の推進と働き方改革アクションプランへの取組み

- 新卒採用を中心として、中途採用、定年再雇用を行い、年齢構成の歪み是正、女性活躍、高齢者雇用を引き続き推進する
- 計画年休、工事休暇の完全取得といった「働き方改革 アクションプラン・ステップ2」への取組みと、協力業者との連携による「建設キャリアアップシステム」の導入を推進し、更にICT活用などで働きやすい職場環境を構築し、生産性向上を図る

#### 設備投資の着実な実施と賃貸事業の新規開拓

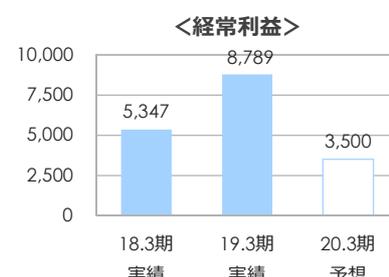
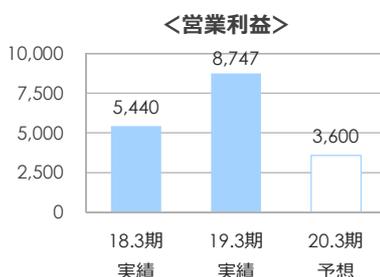
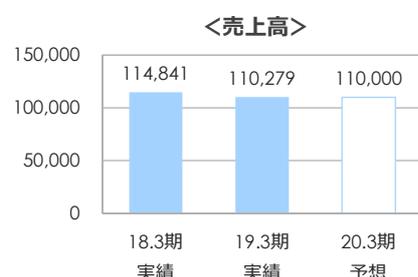
- グループ全体で大規模更新における床版製作設備増強や機械化施工に向けた設備投資を着実に実施する
- 前年度は新たな賃貸事業を展開することができたが、引き続き収益基盤を強固にするため、賃貸事業の新規開拓を進めていく

# 2020年3月期業績予想と前年実績対比

## 連結業績予想

(単位：百万円、%)

	2018.3期		2019.3期		2020.3期予想		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	114,841	18.7	110,279	△4.0	110,000	△0.3	大規模更新事業の工期の長期化影響により土木事業の減収
売上総利益	13,819	20.6	18,059	30.7	12,500	△30.8	大型新設橋梁の竣工の減少
営業利益	5,440	47.6	8,747	60.8	3,600	△58.8	売上総利益の減少
経常利益	5,347	54.8	8,789	64.4	3,500	△60.2	
親会社株主に帰属する当期純利益	3,844	44.9	7,918	106.0	2,200	△72.2	法人税等の負担増
1株当たり年間配当金(円)	18.0		20.0 (特別配当 12.0)		20.0		普通配当20円



# セグメント別業績予想

## セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位：百万円、%)

	2018.3期		2019.3期		2020.3期予想		コメント
	実績	実績	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	土木事業	63,798	67,489		62,800	△6.9	土木事業は、大規模更新事業の工事進捗を保守的に見込み減収
	建築事業	48,770	40,592		45,000	10.9	
	製造事業	1,638	1,551		1,500	△3.3	
	その他兼業事業	634	644		700	8.5	
	合計	114,841	110,279		110,000	△0.3	
売上総利益	土木事業	9,178	14,118		8,200	△41.9	土木事業は、工事採算の低下傾向、設計変更等による回復要因を保守的に見込み減少 建築事業は、他社との競争激化があるが原価改善による増益予想
	建築事業	4,361	3,298		4,100	24.3	
	製造事業	3	207		100	△51.8	
	その他兼業事業	304	304		100	△67.1	
	調整額	△28	131		-	-	
	合計	13,819	18,059		12,500	△30.8	
受注高	土木事業	55,573	85,066		62,800	△26.2	業界環境は引き続き好況であるが、土木事業の前期受注実績からの反動もあり受注減を予想
	建築事業	45,165	46,188		48,000	3.9	
	製造事業	1,638	1,551		1,500	△3.3	
	その他兼業事業	634	644		700	8.7	
	合計	103,012	133,451		113,000	△15.3	

### 3. 中期経営計画2019の進捗

18

## 中期経営計画2019の進捗

### 数値目標について

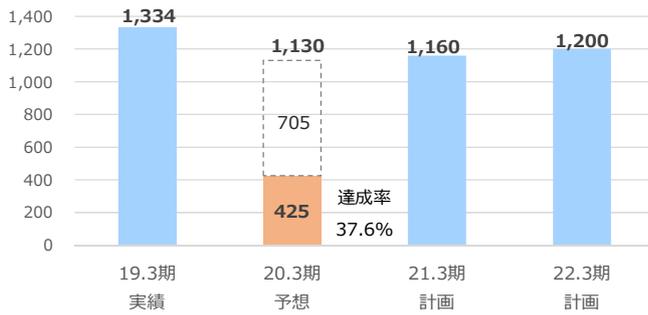
(単位：百万円)

		2020.3期 業績予想		2021.3期 中計目標		2022.3期 中計目標	
受注	土木事業	62,800		64,900		68,200	
	建築事業	48,000		48,500		49,000	
	製造事業	1,500		1,900		2,000	
	兼業事業	700		700		800	
	合計	113,000		116,000		120,000	
売上高	土木事業	62,800		63,600		66,800	
	建築事業	45,000		47,900		48,500	
	製造事業	1,500		1,800		1,900	
	兼業事業	700		700		800	
	合計	110,000		114,000		118,000	
売上利益	土木事業	13.1%	8,200	13.4%	8,500	13.5%	9,030
	建築事業	9.1%	4,100	9.1%	4,340	9.6%	4,680
	製造事業	6.7%	100	8.9%	160	9.5%	180
	兼業事業	14.3%	100	14.3%	100	13.8%	110
	合計	11.4%	12,500	11.5%	13,100	11.9%	14,000
販売費及び一般管理費		8.1%	8,900	7.9%	9,000	7.7%	9,100
営業利益		3.3%	3,600	3.6%	4,100	4.2%	4,900
経常利益		3.2%	3,500	3.6%	4,100	4.1%	4,800
当期純利益		2.0%	2,200	2.5%	2,800	2.9%	3,400

19

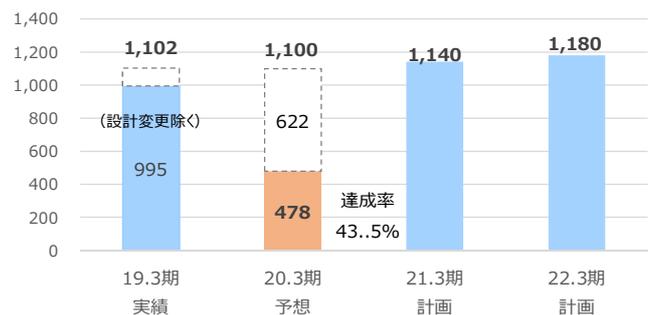
# 中期経営計画2019の進捗

＜受注＞

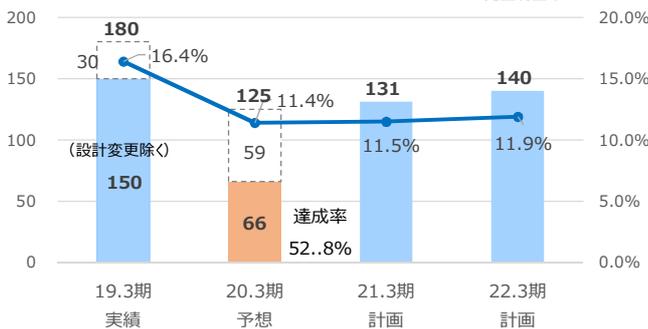


＜売上＞

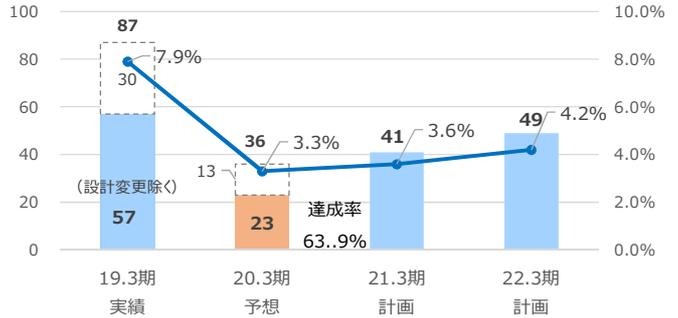
単位：億円



＜売上利益＞



＜営業利益＞

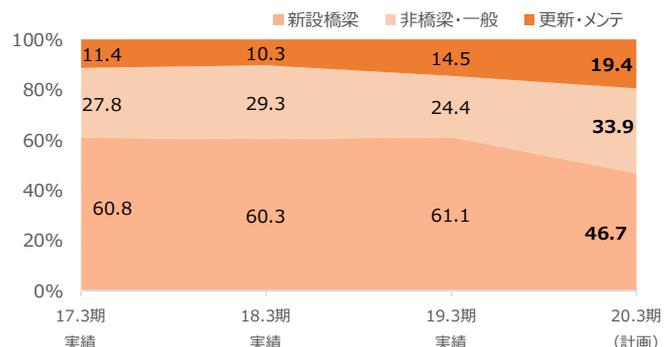


# 中期経営計画2019の進捗

## 土木事業の工事種別の割合変化について

- 2017年3月期～2019年3月期では新設橋梁が約60%を占めていたが、今年度計画では47%と非橋梁・メンテナンス、大規模更新への事業シフトが進む
- 非橋梁・メンテナンス、大規模更新については、新設橋梁と比べて利益率・生産性が低く、要員の適正配置・生産性向上等の施策の実行により、利益率の向上を目指す

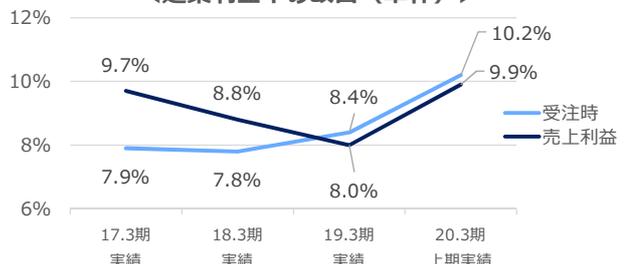
＜土木工事区分割合（売上高）＞



## 建築事業の利益率（受注時・完成時）の改善について

- 受注確保において苦戦しているが、低採算案件を排除しており、受注時利益率は改善が進む
- 売上利益率についても、各現場でのコスト管理の強化や、工事要員の効率的な配置を図ることで、生産効率を上げ、回復基調となっている

＜建築利益率の改善（単体）＞



# 主要テーマの進捗状況

## 新設PC橋梁は、PC業界でのトップランナーの地位を確固たるものにする

- 主力事業である新設PC橋梁で設計変更獲得による工事が完成し利益は改善
- 上期受注は苦戦するも、本社と支店が連携し下期に大型案件を連続して受注
- 技術提案・工事評定点向上のための情報共有システムの再構築

下期受注案件

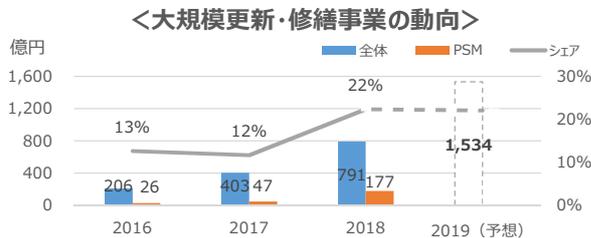
工事名（発注者）	工事概要
城陽第二高架橋（NEXCO西日本）	プレキャストPC6径間連続ラーメン橋 = 1036m(上下線)
津万高架橋（P35-P41）（近畿地整）	PC6径間連続中空床版橋(上下線) = 167.0m
檜木川橋（九州地整）	PC8径間連結T桁橋 = 287.0m



れいめい橋（発注者：NEXCO東日本）

## 大規模更新・修繕工事を主力事業として発展・成長させる

- NEXCO3社からの大規模更新事業は年々増加、大規模修繕事業では阪神高速発注の大型案件を受注
  - 工事大型化への対応として営業情報等を全社で共有、本社主導で全体最適の取組みを実施
  - 生産性と利益率を向上させる生産性向上検討委員会での各ワーキングの活動で開始
  - MuSSL工法、フルキャスト壁高欄が採用



東名高速道路（特定更新等）沼津IC-富士IC間床版取替工事（発注者：NEXCO中日本）

# 主要テーマの進捗状況

## PC技術を核とした元請けおよび設計施工案件の取り組みを強化する

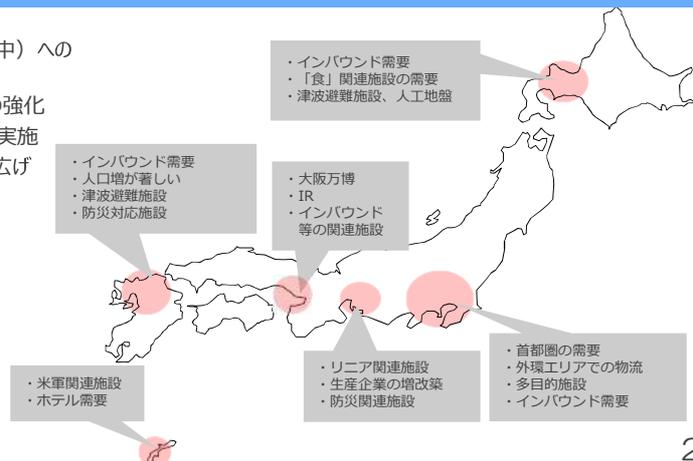
- PC建築の受注が伸び悩む中、4月に営業と工事部門のPC一般の組織を統合。建築本部内にPC推進グループを新設
- 某大学キャンパス新築工事は順調に推移し、無事に10月に上棟し、PCaPC工法の活用事例等の現場見学会を開催
- 構造設計、設備設計要員を増員して、提案力を強化



某大学キャンパス新築工事にてPCaPC工法の現場見学会

## エリアごとのマーケットを見極め、要員を機動的にシフトすることで体制を強化する

- 需要が見込まれる地域への営業シフトと地域戦略（選択と集中）への対応を加速
- 営業顧客カルテの整備による営業情報の共有化と組織営業の強化
- 要員配置システムの運用開始により、施工要員の適正配置を実施
- 土木事業、営業所との連携強化により、営業情報の量と幅を広げ官庁大型案件の受注にもチャレンジ



# 主要テーマの進捗状況

## ICTの活用を推進し生産性を向上させる

- 大規模更新・修繕工事における生産性向上を目指した検討会（設計・施工・製造）は、ICTの活用を含む13のプロジェクトを推進
- 橋梁工事に当社独自の橋梁生産性向上システム「PSM-Intelligent Bridge System」（下図）を立ち上げ、工事の生産性向上を目指す
- 関係会社を含む横断的な組織「基幹となるICT委員会」を立ち上げ、システム構築を推進



## 働き方改革の推進と建設キャリアアップシステムへの登録を推進する

- 働き方改革 アクションプランの状況（9月末実績）
  - 超過労働時間の削減（目標）対前年比△10%以上（実績）△17.7%
  - 工事作業所の週休二日の推進（目標）4週6閉所（達成率）土木96% 建築83%
  - 年次有給休暇の計画的付与（目標）12日以上（実績）5.6日
  - フレックスタイム制の適用範囲拡大
- 建設キャリアアップシステム（CCUS）への対応
  - 事業者登録 119社 技能者登録 3,516名 作業所登録 79作業所



24

# 主要テーマの進捗状況

## 当社独自技術の海外展開（海外機関と共同研究）を推進する

- インドネシア道路技術研究所（IRE）との共同研究に着手
  - 主な共同研究の内容
    - ① 橋梁および土木構造物に関する研究活動
    - ② Znカートリッジ工法を用いた橋梁維持管理技術の開発
    - ③ 遠隔監視装置を用いた橋梁監視技術の開発



調印式典



当社社員のプレゼンテーション（IRE）

## ODA案件のPC橋梁をターゲットにアジア地域の受注拡大を推進する

- ミャンマーでの、「東西経済回廊整備計画（パッケージ1 ジャイン・コーカレー橋建設事業）」に着手

### プロジェクト概要

工事名	東西経済回廊整備計画（パッケージ1 ジャイン・コーカレー橋建設事業）
発注者	ミャンマー連邦共和国 建設省 橋梁局
契約工期	2019年5月～2021年7月（27ヶ月）
工事概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ メイン橋梁（100m+180m+100m）PC3径間エクストラード橋</li> <li>■ アプローチ橋梁（100m+100m）鋼2径間連続少数主桁橋</li> <li>■ その他 アクセス道路、護岸工 他</li> </ul>



起工式典

完成イメージ

25

# Appendix. 会社概要

## 会社概要・沿革

会社概要	
名称	株式会社ピーエス三菱
本社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル3階 Tel (03)-6385-9111
設立	昭和27年3月1日
資本金	42億1,850万円
上場	東京証券取引所市場第1部
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</li> <li>2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</li> <li>3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業</li> <li>4.プレストレストコンクリート（PC）製品およびプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売</li> <li>5.プレストレストコンクリート（PC）工事中用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸</li> <li>6.鉱物の採掘およびその請負</li> <li>7.不動産の売買、賃貸およびそれらの仲介ならびに所有管理</li> <li>8.運送業および倉庫業</li> <li>9.損害保険代理業および生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業</li> <li>10.前各号に関連ある一切の業務</li> </ol>

沿革		
	(株)ピーエス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業（現 三菱重工業(株)）七尾造船所の諸施設及び従業員を引き継ぎピーエス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉱業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1989	インドネシアにて合弁会社 PT.Komponindo Betonjaya（略称：PT.KOBE）社設立	
1991	(株)ピーエスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	
		<p>長生橋（石川県七尾市）</p> <p>1952年に完成したわが国初のプレストレストコンクリート橋。2001年に河川改修に伴って撤去され、一部が希望の丘公園に歩道橋として保管されている。海岸線近くの立地条件にありながら、撤去時の調査において、驚異的な耐久性が確認された。</p>

# グループネットワーク

## ピーエス三菱グループ（主要国内5社）



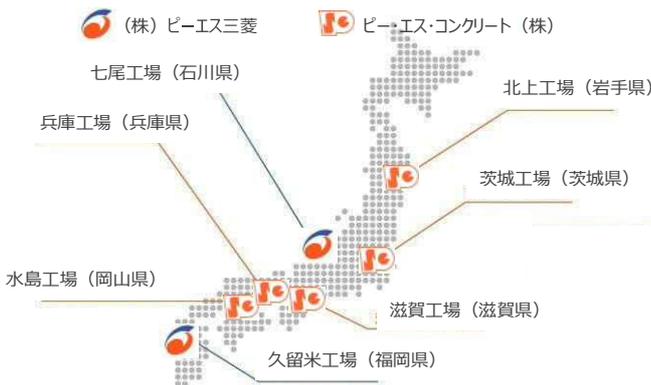
**株式会社ピーエス三菱**  
P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.

支店  
・東京土木支店  
・東京建築支店  
・東北支店  
・大阪支店  
・名古屋支店  
・広島支店  
・九州支店

営業所 -32箇所

株式会社ピーエスケー		PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売およびこれらの運用・活用に関するエンジニアリング
株式会社ニューテック康和		道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル
ピー・エス・コンクリート株式会社		PC製品の製造販売
菱建商事株式会社		建築資材販売、物流、不動産関連など
菱建基礎株式会社		土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

## 国内工場ネットワーク



## 海外ネットワーク



株式会社ピーエス三菱

# 事業構成

## 建築建設事業

【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独自のPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 三菱グループの唯一のゼネコンとして、高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供

- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売

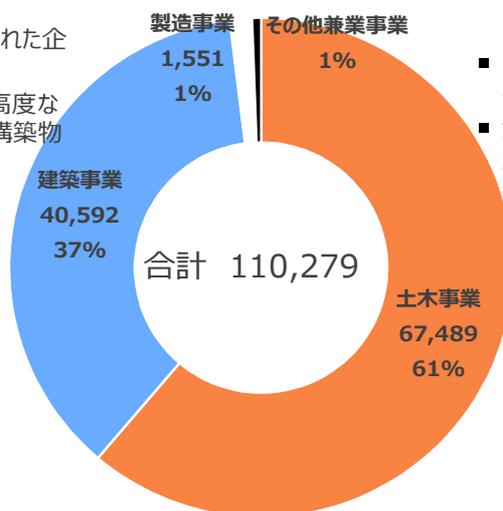


五十嵐電機製作所 新本社ビル

## 製造事業

- コンクリート製品の製造販売

## セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率  
(2019.3月期 単位：百万円)

## 土木建設事業

【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップランナーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開

- PC工事その他一般土木工事の請負
- PC製品の製造販売



新名神高速道路路孤野第二高架橋他3橋（PC上部工）工事

## その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

株式会社ピーエス三菱

# プレストレストコンクリート (PC) 技術とプレキャスト (PCa)技術とは

## プレストレストコンクリート (PC) とは

PCは「あらかじめ (プレ) 応力 (ストレス) を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点(引張には弱い)を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、柱や梁を細くしたり空間の距離を大きく取ることができます



## プレキャスト(PCa)とは

高強度のコンクリートを使用し、あらかじめ工場で製作したコンクリート部材です

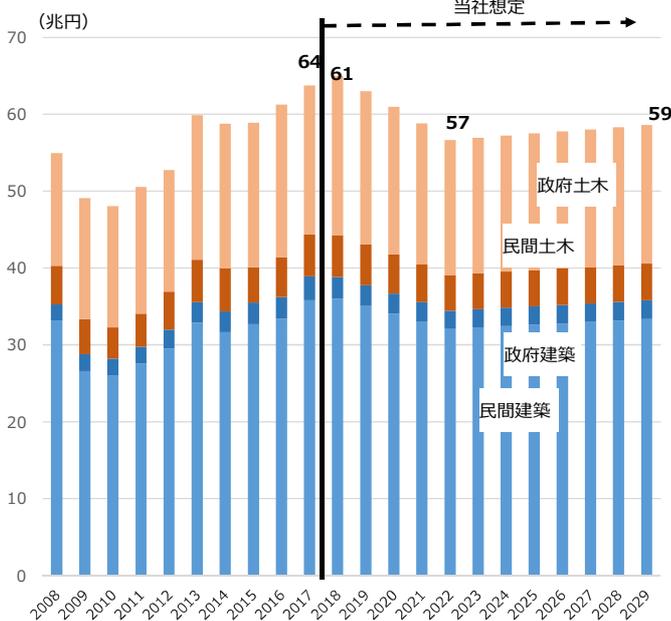
- 工場で生産されるので、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組み施工した場合より周辺の環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます



# 今後の事業環境の見通し

## 建設市場の推移 (中期経営計画2019策定時)

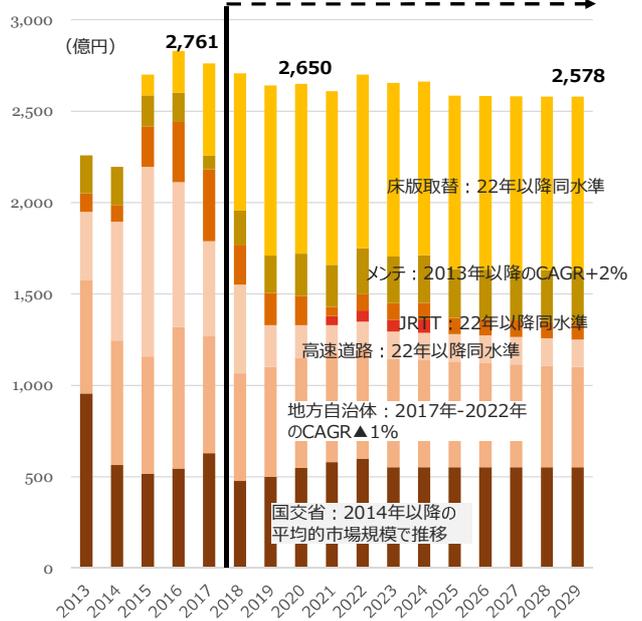
- 建設市場全体 (土木・建築) では、2022年に57兆円に減少し、GDP予測から59兆円規模へ微増と想定



※「GDP予測」×「建設投資/GDP比率の予測」から建設投資額を試算。建設投資額は「民間建築の維持修繕市場」を含んでいないため、当該金額を加算したものを「建設市場」とした

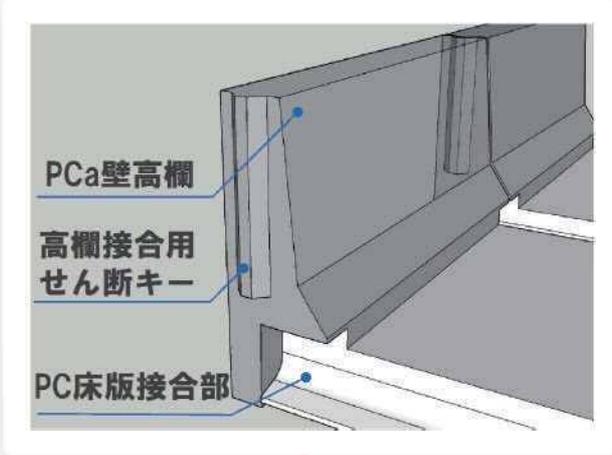
## PC市場の推移 (中期経営計画2019策定時)

- PC土木市場は、新設橋梁の減少とともに維持・補修事業が本格化と想定

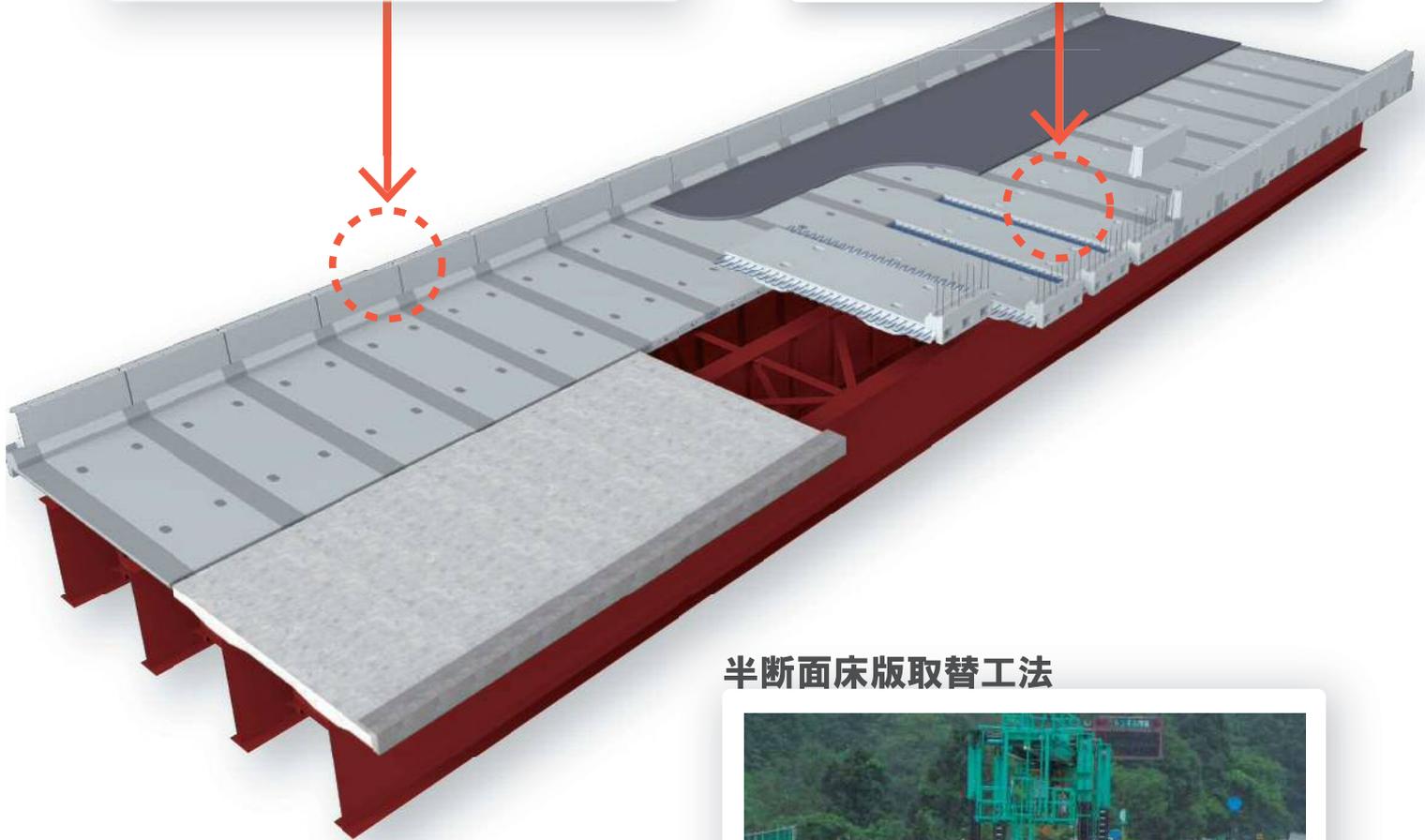


# ピーエス三菱の床版取替技術

フルキャスト壁高欄



MuSSL工法



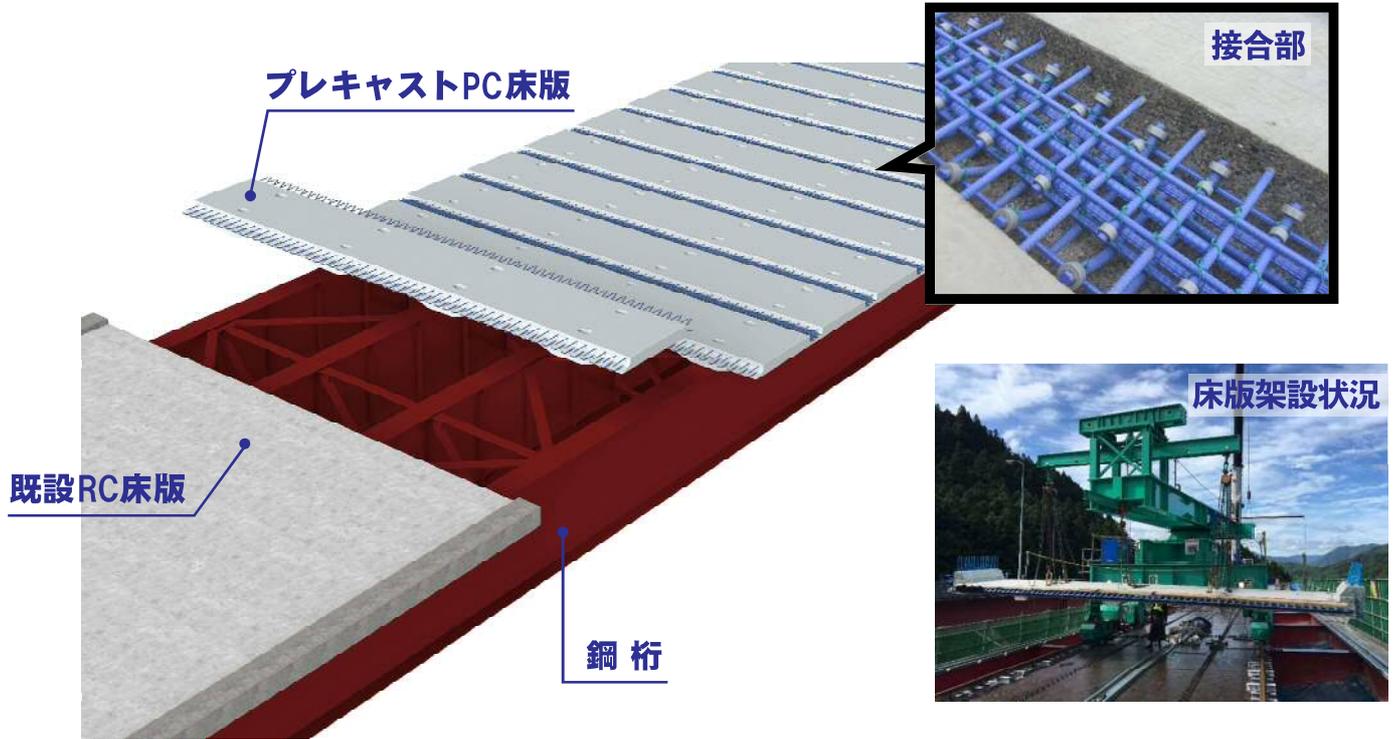
半断面床版取替工法



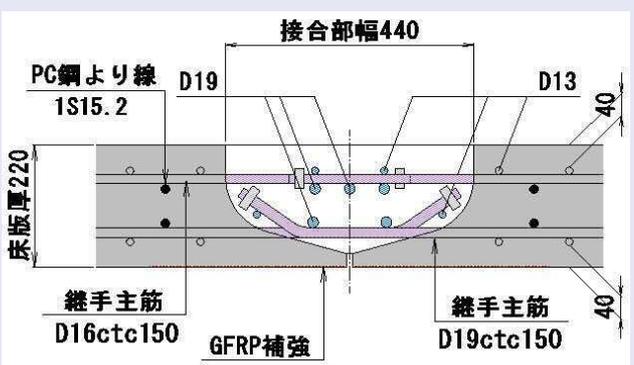
# MuSSL工法

生産性向上を目指したプレキャストPC床版の高耐久性継手構造

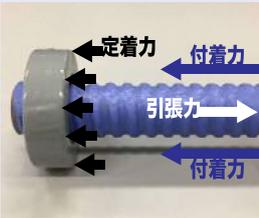
MuSSL工法は、あご付きタイプのプレキャストPC床版に適用可能な継手工法です。接合部は2m毎に配置され、その施工は狭隘な版下空間での人力作業を必要とします。接合部の底型枠が不要な本工法は、安全性と生産性の向上に有効です。



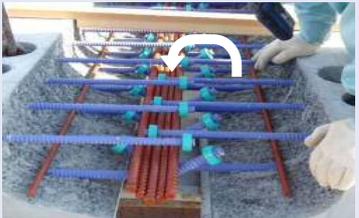
## 継手構造



## 定着構造

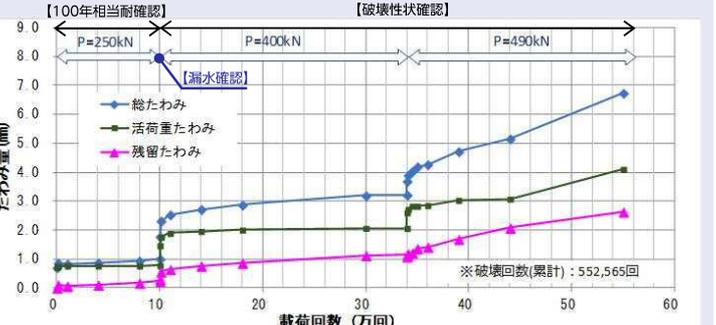


## 接合部鉄筋の組立

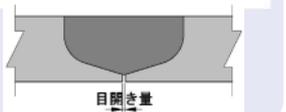


高付着型エポキシ樹脂塗装鉄筋 PCa版架設途中で横方向筋が移設できます 円形ナット (FCD450-10)

## 疲労耐久性



- ・250kN載荷時の目開き量は0.05mm以下
- ・6時間の水張りで下面への漏水無し
- ・PC版部の押抜きで破壊 (継手部で破壊せず)

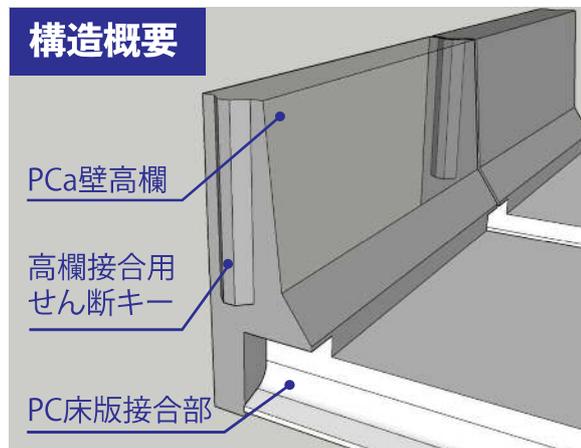


# フルキャスト壁高欄

床版取替工事の急速化を実現する床版同時架設タイプのプレキャスト壁高欄

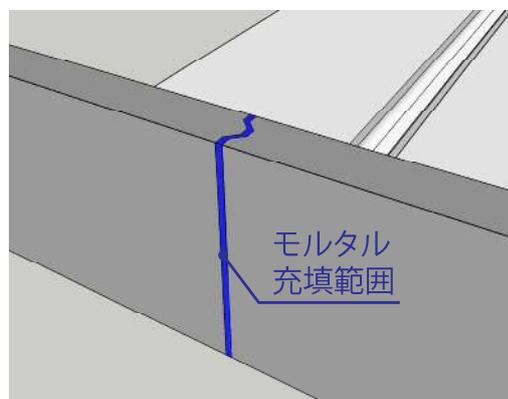
床版取替工事では、床版そのものの施工はもとより、道路両端に設置される壁高欄の施工についても工期短縮が求められております。本壁高欄は、現場での施工を極限まで省力化した「プレキャスト(PCa)壁高欄」です。

## 構造概要



- 1 PC床版の架設前に壁高欄を構築
- 2 高欄接合部はせん断キーのみで接合

本 PCa 壁高欄は、PC床版にあらかじめ壁高欄を構築して架設することで、現場での壁高欄施工を極限まで省力化できる工法です。高欄接合部はせん断キーを用いて荷重を伝達する構造とし、架設後に目地部にモルタルを充填することで接合が完了します。



高欄接合部のモルタル充填範囲

## 施工手順

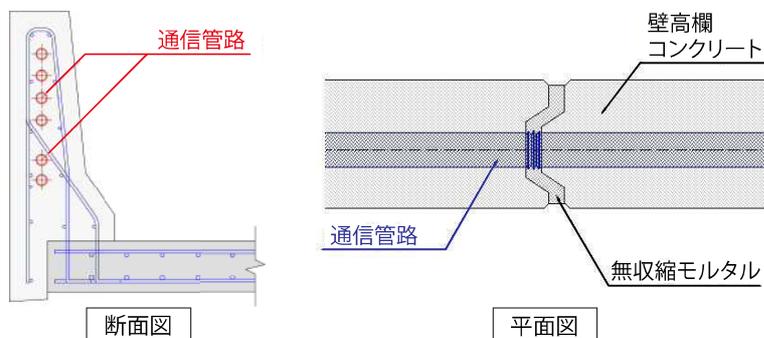
PC床版の製作

PCa壁高欄の製作

現場への運搬および架設

高欄接合部にモルタル充填

施工完了



通信管路の設置に配慮したせん断キー形状

## 衝突試験 実施状況



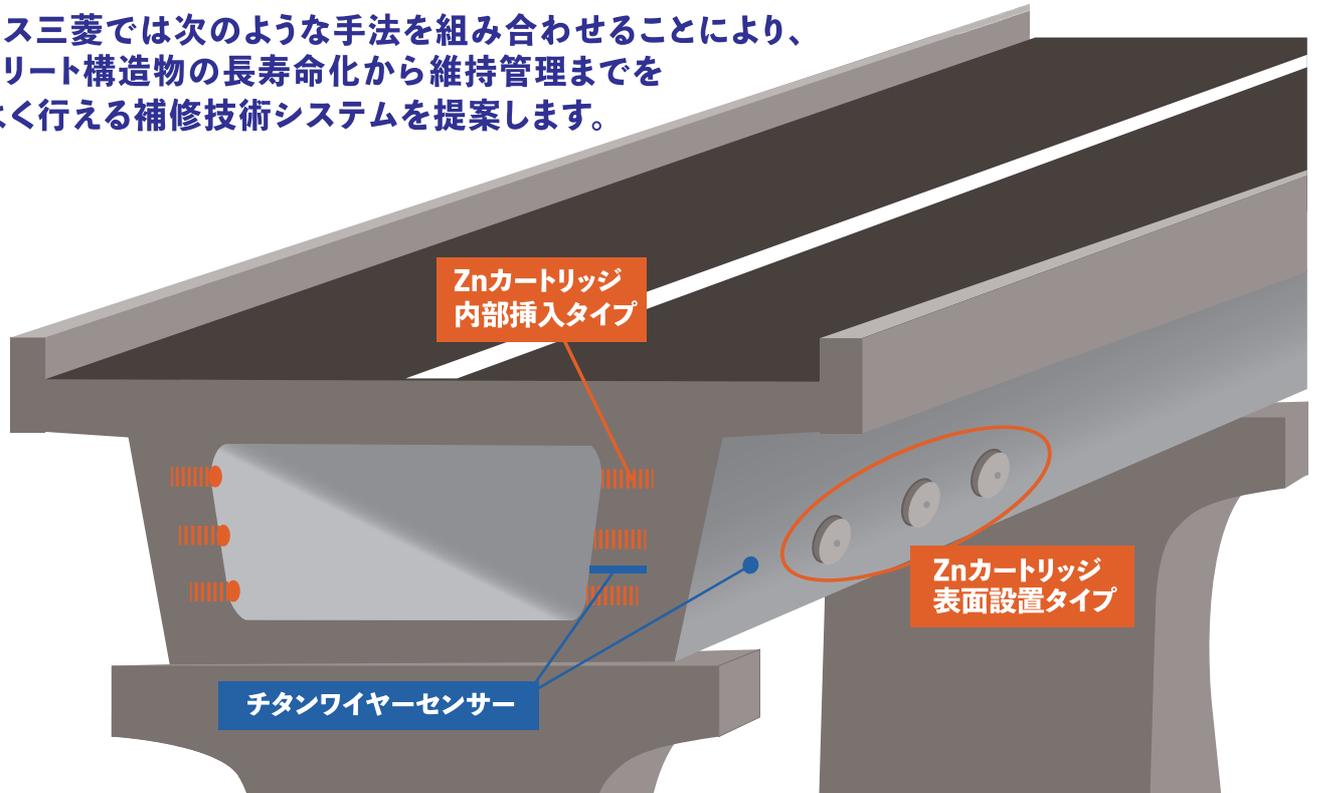
衝突試験状況



衝突試験体全景

# ピーエス三菱の補修技術

ピーエス三菱では次のような手法を組み合わせることにより、  
コンクリート構造物の長寿命化から維持管理までを  
効率よく行える補修技術システムを提案します。



## チタンワイヤーセンサー



コンクリート中に埋設することにより、鋼材の自然電位を計測するモニタリングセンサーです。経済性・施工性に優れています。



## イージーMモニター



計測と通信を自動化することにより、モバイル端末から現地の計測値を何時でも何処でも閲覧することができます。

## Znカートリッジ

### ■内部挿入タイプ



飛来塩分や凍結防止剤により劣化した構造物(箱桁端・RC栈橋・鋼桁のRC床版・地下トンネル等)にZnカートリッジを挿入します。

内部から挿入することにより、外側鉄筋の腐食緩和を行い、交通規制や足場の設置を行うことなく補修を行うことが可能です。

### ■表面設置タイプ



飛来塩分や凍結防止剤により劣化した構造物(PC桁、RC構造物)に適用可能な補修工法です。

表面設置タイプは、Znカートリッジをあと施工アンカーで固定するので、容易な施工と取替えが可能です。

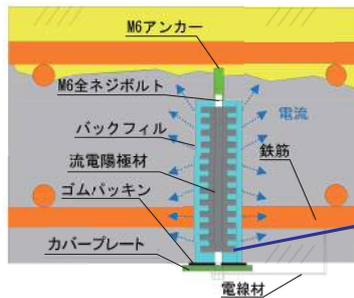
# ピーエス三菱の補修技術

## Znカートリッジ工法

NETIS 登録 KT-180150-A

Znカートリッジ工法は、塩害等により発生したコンクリート内部の鋼材腐食に対して、防食亜鉛を流電陽極材として用いて腐食を緩和する工法です。

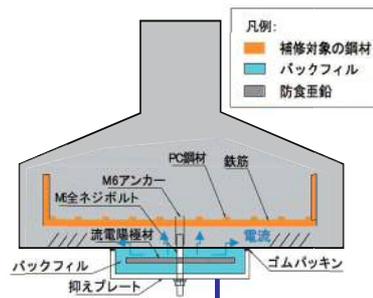
### 内部挿入タイプ



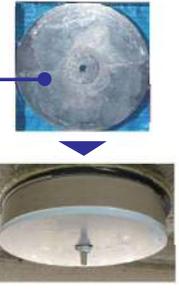
流電陽極材 (防食亜鉛)  
φ30mm, L=125mm



### 表面設置タイプ



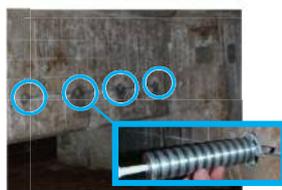
流電陽極材 (防食亜鉛)  
φ110mm, t=5mm



#### ■ 設置事例



RC床版



RC栈橋

#### ■ 適用事例



プレテンション方式PC桁

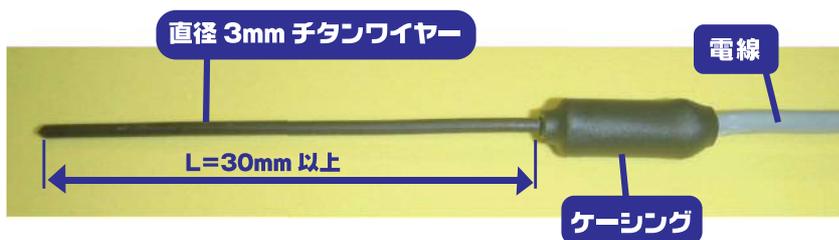


ポストテンション方式PC桁

## チタンワイヤーセンサー

NETIS 登録 KT-170081-A

チタンワイヤーセンサーは、自然電位を計測するモニタリングセンサーのひとつで、従来の照合電極と比較して、経済性・施工性に優れ、更にセンサーの長さを変更することで広範囲の自然電位を計測できる等の特徴を有しています。



チタンワイヤーセンサー

ドリル削孔による設置

## イージーMモニター

NETIS 登録 KT-170043-A

モバイルモニターイージーMモニターは、計測と通信を自動化し、モバイル端末に計測データを送付することで、何時でも何処でも手軽に維持管理ができるようにしたモバイル型遠隔監視システムです。



# 知られざる PCaPC 建築の世界 仕事に向き合い 自らを高める職場

独自の強みを持ち、社員が成長できる会社——  
それが、ピーエス三菱の魅力だ。独自の強みとは、  
強度を高めた「プレストレストコンクリート(PC)」の先駆者、  
PCゼネコンであるという点。  
それを「プレキャストコンクリート(PCa)」という工場生産の部材  
として用いるPCaPC工法は省力化を図れることから、  
人手不足のいま市場には追い風が吹くという。  
そのPCゼネコンの現場は  
社員をどのように成長させてくれるのか——。



国際医療福祉大学大川キャンパスの施工に携わる面々。写真左から、丸本真也氏(設計担当)、鈴木英俊氏(工事主任)、佐藤一海氏(設備担当)、田村定晴氏(PC工事担当)、中野晴之副所長、上田哲生所長、犬飼充史氏(設計担当)、溝上豪氏(PC工事担当)、田中敏幸副所長(PC工事担当)、平山敬大(工事担当)

PCゼネコンの現場を見ようと、国際医療福祉大学大川キャンパスを訪ねた。ピーエス三菱が設計・施工を担うのは、薬学部校舎。延べ床面積1万㎡を超える規模ながら施工期間は1年と短い。

着工は2019年3月。完成は2020年4月開校に間に合わせる。作業所長を務める上田哲生氏は、「当社が選定された最大の理由は、短工期で仕上げられる点です。それこそ、PCaPC工法の魅力の一つです」と胸を張る。

PCもPCaも学生にとってはなじみのない存在。しかしだからこそ、そこに新鮮味を覚えるのかもしれない。実際、PCaPC工法に関心を抱き、エントリーや入社を決めた若手は少なくない。

2016年入社で施工管理の一端を担う溝上豪氏は、「会社説明会後の面談でPCゼネコンという特徴を知り、興味を持ちました」と振り返る。入社後は、長崎や沖縄の現場でPC工事を担当してきた。「躯体が建ち上がって建物の全体像が見え始めると、その姿に仕事のやりがいを感じます」。

## 建築のプロも信頼置く 継続受注のPCゼネコン

2018年入社で設計志望の田村定晴氏も、同じようにPC技術に引かれて入社を決めた一人だ。「この現場で納まりを学んで、会社から設計業務を任せられるまでに成長したいですね」。

PC技術が会社の強みになっているという点は、入社後、経験を重ねるうちに自ずと感じるようになるという。1993年入社で施工管理を担当する田中敏幸氏はこう誇らしげに話す。

「業界全体では中堅ですが、PCゼネコンとしてはトップクラスの会社です。当社グループの工場群がもつ品質管理の高さも、PC技術の根幹を支えています。」



国際医療福祉大学大川キャンパス完成予想図

2002年入社で同じく施工管理を担当する中野晴之氏も、PCゼネコンとしての強みに誇りを持つ。「PC技術を持つことで、大型案件の設計・施工でも声が掛かるのがうれしい」。

とはいえ、PCゼネコンという会社の強みに安住することはない。それは、同じ発注者から継続して受注する案件が多い点にも表れている。

例えばこの現場も、そうだ。発注者である学校法人国際医療福祉大学からは、千葉県成田キャンパスや神奈川県小田原キャンパスなど複数の大学施設で設計・施工の案件を受注している。

2002年入社で設計担当の犬飼充史氏は「上司は仕事に臨む姿勢が厳しく妥協を嫌います。当初はついていくのに必死でした。ただ、そうしたシビアな姿勢が継続受注につながっていることを実感します」と明かす。

その上司は、1992年入社で企画設計担当を束ねる丸本真也氏。後輩や新人にこう言葉をかける。

### 仕事は精一杯やり切り 職場で自らを磨き上げる

「どんな人間かまでは深くは知らない相手に数億円もの予算で設計・施工を任

せてもらえる以上、能力以上の力を発揮しないとはいけません。ただ、それを達成できれば、建物を向こう数十年、大事に使ってもらえる。そんな経験を味わえる仕事は世間にはそうありません」

一つひとつの仕事に精一杯やり切ること、自らの血肉になる。

施工管理を担当する鈴木英俊氏は2006年入社。現場経験を重ねながら、平面図を基に工程を組み立て、納まりをイメージする力を培ってきた。作業所長の上田氏は「平面図を見ただけでパースを想像し、色やテクスチャーまで思い浮かべる力がある」と評価する。

その鈴木氏がやはり、精一杯の姿勢を強調する。「経験を重ねるだけでは成長できません。常に真剣な姿勢で場数を踏んでいくことが大事です」。

失敗はあっていい。糧にもなる。

2017年入社で施工管理の一端を担う平山敬大氏はミキサー車を手配し忘れ、打設当日に生コン工場に必死に掛け合い、事なきを得たことがある。以降、段取りが途絶えることがないように日々の業務に励んでいる。

若手からベテランまで仕事に真剣に向き合える職場。自らを磨き上げ、将来を切り開くのに格好な場が、そこにある。

#### 【会社情報】

資本金 42億1850万円  
売上高 1102億7900万円  
(2019年3月期、連結)  
社員数 1700名(2019年3月現在、連結)  
創業 1952年  
事業内容  
①プレストレストコンクリート工事の請負ならびに企画、設計、施工監理  
②建築一式工事、土木一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理  
③土木建築構造物の維持、補修に関する事業 他

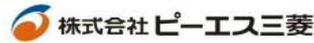
#### 【採用情報】

採用職種 総合職  
【技術系】建築・土木施工管理、設計および技術開発、建築設備など  
【事務系】総務、経理、事務管理、営業など  
採用実績大学 全国の国立私立大学・大学院および高等専門学校  
採用実績学科  
【技術系】建築、土木、機械、電機、環境工学、材料系学科 他  
【事務系】学部・学科問わず  
勤務地 全国および海外(転勤あり)  
2019年採用実績 36名  
2020年採用予定数 40名  
初任給  
修士了 260,000円(予定)  
学部卒 240,000円(予定)  
高専卒 220,000円(予定)

#### 【問い合わせ先】

株式会社ピーエス三菱  
部署名 人事部採用・研修グループ採用担当  
住所 〒104-8215  
東京都中央区晴海 2-5-24  
電話番号 03-6385-8003(採用担当)  
URL <https://www.psmic.co.jp/>  
E-mail [psmsaiyou@psmic.co.jp](mailto:psmsaiyou@psmic.co.jp)

# ピーエス三菱のPR動画を作成しました。



## 将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

## IRに関するお問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱 管理本部 総務部 広報・IRグループ  
〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル  
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-3536-6927 メールアドレス : koho.ir@psmic.co.jp